

安藤忠雄氏が講演

建築家志望
者にエール

美意識磨き精進を

今年度から建築士試験対応
講座を開講した資格の学校T

AC(本社・東京都千代田区)は、開講1周年を記念して建築家の安藤忠雄氏を招き「夢をかけて走れ」と題する講演会を開いた。写真。仏国最高位の芸術文化勲章コマンドゥールを受章した安藤氏は「賞を狙うことではなく、死に物狂いで勉強し、世界がどうなっているのかを知り、美意識を磨き、日々の仕事に精一杯取り組まなければならない」と、建築家を志望する若者に力強くエールを送った。



物事を考える必要があると力を込める。その上で「戦後復興や五輪、万博の開催といった目標を持たず、親から甘やかされて育った1980年代以降に生まれた若者世代は最悪だ」とも。

大切なのは、自分が誰にも負けない「原点」となる場所を持ち、知的腕力・闘争心・情熱に裏打ちされた「暴力」を持つことだという。「日本は国際社会で競争しなければならぬのに、日本人には緊張感が足りない。若者は危機感を持って能力を高め、自分の目標に向けて戦う必要がある」と言い切る。

安藤氏は今後、建築を取り巻く状況はさらに難しくなっていくと分析する。「コンピュータによって数量化された建築はコストプランニングがしっかりしており、デザイナーが入る余地がなくなっている」からだ。しかしそういった状況だからこそ「自分が建築のどの部分に参入するかを考え、自力で生きていく方法を学ばなければならない」と若者が「学ぶ」重要性を力説した。